

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870105677		
法人名	有限会社 司		
事業所名	グループホーム 司		
所在地	愛媛県松山市浅海原甲405番地 (電話) 089-995-0399		
管理者	平野 愛		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 4 月 30 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 9 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	12.8 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 12 日事業所記入)

利用者人数	14 名	男性 6 名	女性 8 名
要介護 1	7 名	要介護 2	3 名
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 80.2 歳	最低 66 歳	最高 94 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いの木造二階建てのホームは海岸に面し、ホームの中からも広々とした海原を一望でき、開放的で美しく、また散歩にも適している。夏は浜風が通るため涼しく、冬は日当たりが良いため日中は暖かい。利用者本位の暮らしを支えるべく利用者のペースを尊重し、スキンシップやアイコンタクト、声かけによる暖かいケアに努めている。開設間もない時期から職員の離職や異動がないことから、馴染みの関係が確立されており、利用者も穏やかに過ごせている。サービスの質の向上に対して意欲的で、改善へ誠実に取り組んでいる。また、運営推進会議も活発に

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
理念の具体化や災害対策マニュアルの作成、介護計画の作成及び見直しを全職員で話し合うこと等が前回調査で課題として挙げられ、課題の項目について全職員が理解し、話し合い、改善計画を立てており、共通理解のうえで段階を追って改善に努めている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
管理者と各ユニットリーダーが項目を一つひとつ丁寧に話し合っ評価を行い、その後ユニットリーダーがそれぞれのユニットの自己評価をまとめ上げている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議を重ねることで、地域の方から積極的に意見が出されるようになってきている。地域とのつながりを深めていくためホームに地域の人を招く取り組みを勧められ、保育園児、小・中学生との交流や秋祭りでは地域の方や小学生に獅子舞に入ってもらおう等運営に活かしている。ターミナルケアについても議題に取り上げ、ホームの方針を説明し、理解が得られるよう努めている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
利用者の暮らしぶりや健康状態については面会時に話したり、手紙や電話で連絡しており、その際は家族に要望や意見等を聞くよう心がけている。家族からの要望には速やかに対応している。意見を出しやすくするため、年2回家族会を開いている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地域の保育園への訪問や小学生の社会学習のための見学を受け入れたり、利用者とともに運動会に参加したりしている。運営推進会議での情報をもとに、地域の夏祭りや秋祭りにも参加している。また、地域包括支援センターからの働きかけで、中学生の体験学習を受け入れている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 司

(ユニット名)

あい ユニット

記入者(管理者)

氏名

二宮 恵里

評価完了日

平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 『満足のいく生活をする為に、個人の自由と尊厳を守り、優しく暖かい心を持って接します』という理念があり、理念が具体的に分かり易く理解できるよう『・言動に対してまずは否定しない。・尊敬の気持ちを忘れない。・したいことができるよう支援する。・笑顔で接する。』という目標を全職員で話し合いつくりあげた。 (外部評価) 全職員が話し合い、理念が日々のケアに活かせるよう、具体的な目標を作り上げている。契約書に、利用者の権利として地域社会の一員として生活することを明記し、地域の中で満足のいく生活を送ることができるよう支援していくことを理念に込めている。	※	職員で、理念に対する目標をつくりあげたことで、理念が明確になり、利用者によりよいサービスを提供することが少しずつでもできるようになっている。今後も理念が日々のケアに活かしていけるように努めていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関、リビング、重要事項にも記載し明記している。 (外部評価) 理念と具体的な目標を玄関、リビングに掲げ、パンフレット・重要事項説明書に理念を明記し、共有している。2～3か月に1回、職員会で理念の実践について話し合い、日々のケアに活かしている。具体的目標を作り上げたことで、職員が笑顔が心がけ、利用者からの要望が出やすくなる等、サービスの質の向上につながっている。	※	職員会で、全職員が日々理念に沿った支援が利用者に対して行えているか再確認していく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族に対しては、入居契約時に説明している。地域の人々に対しては浸透できていない。	※	地域の人々にも事業所のことを知ってもらえるような取り組みを事業所、運営推進会議等で話し合い、積極的に行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩などで通りかかったら挨拶をする程度で、気軽に立ち寄ってもらえるまでには至っていない。	※	近隣の人々が気軽に立ち寄っていただけるよう、職員会などで話し合い工夫して努めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の夏祭りや小学校の運動会に参加したりと、除々にはあるが地域の人々との交流の機会を持つよう努めている。	※	積極的に地域の行事などに参加するように努めていきたい。また、地域の人々にも当ホームの行事に参加してもらえるように努めていきたい。
			(外部評価) 地域の保育園を訪問したり、小学生の社会学習や中学生の体験学習を受け入れたりしている。また、小学校の運動会にも参加している。運営推進会議で地域行事について情報を得て、夏祭りに利用者とともに参加し、秋祭りでは地域の方や小学生に獅子舞に入ってもらおう等、地域交流を進めている。	※	婦人会やサロンとの交流や地域の奉仕活動にも積極的に参加していくことをホームとして検討しているため、これらの交流を通して地域とのつながりがさらに深まることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の方々と交流する計画を立てていたものの、実現できていない。	※	職員会や運営推進会議などで話し合い、地域に貢献していけるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営者、全職員がサービス評価を受ける意義や目的を理解し、日々の運営状況を評価項目を参考に見直し、運営者と職員が話し合い、改善できる点は改善に取り組んでいる。また、前回の外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。	※	外部評価の結果を職員会で話し合い、改善に向けての具体的な案を検討し、日々のケアに反映するために努めている。
			(外部評価) 評価の意義を十分理解しており、前回評価の後、全職員で話し合い、改善計画を作成し、積極的に改善に取り組んでいる。改善計画についての評価も職員会で話し合い、意識統一できている。自己評価は主に管理者と各ユニットリーダーとで行っている。	※	ホームの勉強会で評価について取り上げ、全職員が項目内容を理解した上で自己評価に取り組むことで自らのケアの振り返りの機会とすること、さらに職員一人ひとりがサービスの質の向上のためにホームが取り組むことについて考え、意見を出し合うことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、家族や地域の方の意見を参考にしてサービスの向上に活かしている。昨年は、民生委員より地域の夏祭りの話を聞き、利用者に参加することができた。今後も地域の行事に参加していきたい。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議の開催を重ねるごとに、地域の方から率直な意見が多く出るようになり、地域行事への参加等運営に活かしている。メンバーである民生委員が、ホームが計画している婦人会やサロン等との交流に協力的で、ホームが地域とのつきあいを深めていく推進力となっている。	※	運営推進会議で頂いた情報を基に、地域の行事などに参加し、地域との関わりを深めていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 毎月ある地区のサービス調整会議に出席している。 <hr/> (外部評価) 地域包括支援センター主催の地区サービス調整会議に毎月出席し、情報交換している。また、センター方式の研修会等も開かれており、ホームの運営に活かしている。市職員の紹介で、市保健センター保健師から栄養指導を受け、手作りのおやつを出すようになり、利用者からも喜ばれている。	※	今後も毎月地区のサービス調整会議に出席していき質の向上に取り組んでいきたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員が制度に対して理解はできていない。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が制度に対して理解し、必要な場合には活用できるようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について全職員が理解しており、事業所では虐待について防止できている。高齢者虐待防止関連法については、事業所内での勉強会の際に学ぶ機会を持った。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が高齢者虐待防止関連法について学んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に家族や利用者に会い、入居対象者であるか検討し、その際医療体制について詳しく説明もしている。契約時には、家族だけでなく利用者にも立ち会ってもらい、分かり易い説明を行うように心掛け、理解・納得を得ている。	※	家族や利用者にとって分かり易い説明を行うように心掛け、その都度不安や疑問などはないか確認をして、理解・納得を図っていききたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者が個々に信頼している職員に、意見・不満・苦情等を伝えている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 事業所で預かっている金銭に関しては、金銭出納帳を作成して、毎月利用料の請求書を郵送する際コピーを同封している。健康状態等は、面会に来られた際や電話、定期的に発行している便りにて報告している。 (外部評価) 面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。また、状態に変化が見られた際には電話でも連絡している。毎月の請求書を送付する際に手紙と金銭出納帳のコピーを添え、遠方で面会の少ない家族にも利用者の近況がわかるよう配慮している。さらに、季刊のホーム便りに、個人情報に配慮しながら利用者の写真や記事を載せている。	※	金銭出納帳に関しては、家族が面会時に来られた際に、確認の印鑑を押していただけるようにしていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を開いたり、面会の際に、意見・不満・苦情等を聞いている。また、苦情相談機関を事業所と外部に設けており、そのことを重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。 (外部評価) 年2回の家族会開催時や面会時、電話等で家族等の意見を傾聴している。家族からの要望には速やかに対応するよう心がけている。また、苦情相談窓口をホーム内と第三者機関に分けて重要事項説明書に明記し、契約の際に説明している。	※	家族が気軽に意見や不満等を表せるように、事業所内に意見箱を設置したり、家族会などの機会を今後も設けていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者は、日々職員と関わる機会を設け、意見や提案を運営に反映させている。	※	職員が、運営に関して意見や提案を言い易い機会を設けていき、運営者や管理者は運営に反映させるようにしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状態や生活のペースに対応できるように、職員間で話し合い勤務を組んでいる。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) やむをえず職員等が離職する場合には、後任に引き継ぎを行い、利用者や業務に影響を及ぼさないように努めている。 (外部評価) 運営者は現場の様子を把握し、職員が働きやすい環境づくりに努めている。職員間のコミュニケーションがよく取れていることもあり、離職が抑えられている。また、利用者にとって馴染みの関係が大切であることを十分認識し、ユニット間の異動も行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外での研修では、分かり次第情報を提供し、参加を呼びかけたり希望を聞き入れ、常勤、非常勤関係なく参加している。その際、参加していない職員にも分かるよう職員会で報告したり、資料を作成し、共有できるようにしている。事業所内では定期的に勉強会を設けている。 (外部評価) 地区サービス調整会議や県社会福祉協議会主催の研修に全職員が交代で参加し、伝達講習している。職員の育成のため、運営者はできるだけ出勤扱いで研修に参加できるよう配慮している。ホーム内でも、虐待や拘束、記録の書き方等について月1回勉強会を開きレベルアップを図っている。	※	今後も事業所外で開催される研修には積極的に参加するように情報を通知し、事業所内での勉強会も定期的に設けていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 毎月開催されている地区のサービス調整会議に出席して、ネットワークを作り情報交換を行い、サービスの質を向上させるよう努めている。	※	事業所の集まりには積極的に参加していき、他の事業所との交流を図り、サービスの質が向上するように努めていきたい。
			(外部評価) 月1回の地区サービス調整会議で同業者と交流・情報交換する機会があり、そこで学んだことをサービスの質の向上に役立てている。	※	地区サービス調整会議での交流をさらに深め、相互のホームを見学したり、相互研修に発展させて他ホームの実践を取り入れたり、自ホームの実践を紹介したりできる関係づくりに期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者は、時折業務に参加したり、積極的に職員と関わりを持つようにして、業務での悩みや意見を言い易い環境をつくるように努めている。	※	定期的に親睦会や慰安旅行等を開催して、運営者や職員が気軽に話し合い、ストレスが軽減できるように努めていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 業務の合間等に職員と話をし、業務内容、勤務状況、意見等を聞くようにし、働きやすい環境づくりをしている。	※	職員の努力や実績に対して、本人に直接声をかけ称えたり、賞状または賞与を授与していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくりと時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めている。	※	利用者にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくり時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくりと時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めている。	※	家族にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆっくり時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族からの思いや悩み等の話を時間をかけて聴き、職員間で今どのような支援が必要なのか話し合い、対応するように努めている。	※	本人や家族からの話を時間をかけて聴き、どのような支援を最優先に行うべきか職員間で話し合っ対応していきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族だけで入所を決めるのではなく、本人にも施設を見学してもらった上で入所されるかどうかを決めていただく様に努めている。 (外部評価) 入居前に利用者の自宅または入院先等を訪問して事前調査を行い、利用者や家族に見学に来てもらっている。2～3日、食事の時間を一緒に過ごしてから入居する、1週間の体験入居をする等、利用者に応じて馴染みながら入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員だけが何もかも行うのではなく、一緒にできることは利用者の方にもしていただき、時間の共有ができるように心掛けている。 (外部評価) 利用者とは会話を楽しみながら一緒に家事をしている。利用者から感謝の言葉や、心を許して本音で話をされた時等には喜びを感じ、働く意欲につながっている。職員が手を取り、目を合わせて声をかけると表情が和らぐ場面があった。手伝いの後の職員のねぎらいの言葉に、利用者が気持ちよく答えている姿も見られた。	※	利用者一人ひとは人生の先輩であるということを念頭に置いて、できることはして頂いたり職員と一緒に行動したりと、共に支え合って生活しているという関係を築いていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた際や電話、定期的に発行している便りにて、本人の最近の状態などを報告し、家族が本人の今の状態が把握できるように努めている。	※	家族の方に、面会や電話、便りなどで利用者の生活状況などを報告し、本人の現在の姿を知って頂き、共に支え合っていく関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人が家族の面会を待ち望まれていたことなどを伝えて、本人にとって家族はかけがえのないものであるということを分かって頂けるように努めている。	※	利用者と家族の関係が途切れてしまわないように、職員が間に入ってお互いの思いを伝えたりと支援を工夫して、より良い関係が築いていけるように努めていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣から入所された方が増えてきたため、一部ではあるが顔馴染みの方たちが集まり、懐かしんでお話されている姿をよく目にすることが増えてきた。家族等には、時間があれば面会に来てくださるようお願いをしている。	※	利用者にとって馴染みのある方や場所との関係が途絶えてしまわないように、利用者の思いを聴く機会を設けて、職員が間に入って関係が継続できるように努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者の様子を観ながら、孤立しないようにさりげなく声かけを行ったり、レクリエーションや家事などを一緒にして頂くように努めている。	※	利用者一人ひとりの性格や状態、利用者同士の人間関係を把握して、職員は利用者同士のより良い関係が築いていけるようにさりげなく支援していきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 今現在はそのような方はおられないが、今後はそういう取り組みも行っていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や本人と話し合い、情報収集を行い、暮らし方の希望や意向の把握に努めたり、本人と他の入居者との会話の内容にも耳を傾けるようにしている。 (外部評価) センター方式の用紙を事前に家族に記入してもらい、情報収集に努めている。職員が利用者の希望等に気付いた時には個別ケース記録やミーティングノートに記入し、情報を職員間で共有している。利用者が自分の思いを表出できるよう、利用者との対話を大切にしている。	※	全職員が利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように、利用者のさりげない言動も逃さないように配慮しながら、情報収集をしていくように努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、本人や家族からの情報収集により把握するように努めている。	※	利用者のその人らしい生活を支援していくために、これまでの生活状況を本人や家族、以前利用していた事業所等で情報収集をし、全職員で情報を共有するように努めていきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) センター方式や日々の状態を記録して参考にし、職員間で話し合い、現状を把握するように努めている。	※	利用者のちょっとした変化も逃さないように、利用者との関わりを大切にして、全職員が現状を把握するように努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) できる限り本人の意志を尊重し、介護計画を作成するようにしている。本人の希望等が分からない場合は家族に聞くようにして、作成するようにしている。また、職員がカンファレンスで話し合い、作成している。 <hr/> (外部評価) 介護計画について学習会を開き、全職員が理解した上で一人ひとりが気付きを出し合っている。本人や家族の希望を反映させた介護計画を作成している。	※	スタッフのみで作成するのではなく、本人、家族を交えて、本人の意向に沿った介護計画を作成していきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画に応じた見直しを行っている。それ以外でも状態が変化した際には、カンファレンス等を行いながら見直している。 <hr/> (外部評価) 生活記録にケアプランの援助内容を明記し、毎日実施状況を記録し、見直しに活かしている。基本的には、3か月に1回新しい計画を作成しているが、計画作成担当者がモニタリングし、状態変化が見られた場合や利用者の希望等が変化した場合には随時見直している。	※	本人の状態に合わせた見直しを行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々気付いたことをミーティングノートに記入し、情報の共有を心掛けている。また、月に一回はカンファレンスを行い、ケアについての話し合いを行っており、それを介護計画の見直しに活かしている。	※	個別記録やミーティングノートに書かれていることを全職員が把握するように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が面会に来られた際には、本人の普段の様子を説明し、要望があった際にはミーティングノートや引継ぎ時に伝達したりしている。 (外部評価) 家族の希望に応じて通院介助している。利用者の状態を把握した上で、通院が困難な場合には、家族の了承を得、主治医に往診を依頼し、利用者の負担を減らすよう努めている。	※	利用者や家族が、気軽に要望を言えるような関係や環境を築き、要望があった際には全職員で情報を共有して、柔軟な支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 昨年より、地域の小学校・保育所と交流を持てるようになった。今後も交流を持っていきたい。また、地域のサロンの方とも民生委員を通じて交流をしていきたい。	※	昨年より地域の小学校・保育所と交流を持てるようになった。今後も交流を持っていきたい。また、民生委員や他の関係機関の方にも協力して頂き、地域の方とも交流していきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の身体状況・意向に合わせて、病院でのリハビリを行ってもらったり、訪問看護に来てもらったりしている。	※	本人や家族の意向が実現できるように、様々な関係機関と協力し、支援していきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ご意見やアドバイス等を頂いているが、それ以外での関わりは特にない。ご本人の意向や必要性があれば、協力をお願いし、支援していきたい。	※	本人の意向や必要性に応じて、様々な関係機関等と協力しながら支援していきたい。また、地域包括支援センターと協働していけるように関係づくりを行っていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の要望を聞き入れ、以前からの主治医が良い場合には継続して受診・往診ができるように支援している。 (外部評価) 本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医となっている。馴染みのかかりつけ医を継続する場合も、受診介助や往診依頼による受診支援を行っている。遠方の病院受診の時は、家族に受診介助してもらっているが、利用者の状態を伝え、受診後の報告を聞き、適切な医療が受けられるよう支援している。	※	本人や家族の要望を大切にして、主治医が継続できるようにしていきたい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 不穏状態が続いたり、明らかに様子がおかしい場合には家族の承諾を得て、受診し相談している。	※	全職員が利用者一人ひとりの状態を把握し、変化を察知して、緊急時には家族の承諾を得て、いつでも認知症専門医に受診したり、相談できるように支援していきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員は不在であり、来ていないが、准看護師の資格保持者が介護職で在職しているため、健康管理や医療活用の支援ができるように努めている。	※	利用者のかかりつけの看護職等と相談しながら、健康管理や医療活用の支援できるようにしていきたい。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、できるだけ早期に退院できるように、医療機関と連絡を取り合い、情報を共有したりと退院に向けて協力し合っている。	※	早期退院できるように、医療機関と連携を取り合い、情報を共有して協力し合っていきたい。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時や家族会等で、当ホームでできる限界を家族に文章で説明している。重度化した場合についても、状態に応じて話し合いをしている。 (外部評価) 入居時及び状態が変化した時には、重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の希望を聞き、ホームでできること・できないことを説明している。家族の気持ちは状態に応じて変化することを認識し、状態変化の都度話し合いをする必要性を理解している。	※	家族会で終末期ケアについての話し合いを行っている。今後も繰り返し行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医療行為が必要な場合は、受け入れできないことを入所時や家族会で説明している。また、状態が変化した場合は、その都度かかりつけ医に相談し、支持を仰いでケアを行っている。状態に変化が合った場合は家族にも報告し、今後どうしていくかも相談している。	※	今後もホームできること・できないことを家族に明確にし、かかりつけ医と連携を図りながら、ここでの生活が一日でも長く送れるように支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入所前に家族及び本人と話し合い情報交換を行っている。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めている。	※	家族及び本人と話し合い、情報交換を行っていききたい。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めていききたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) センター方式など活用したり、本人や家族からの情報を基に、利用者の性格の把握に努め、本人の嫌な言葉等と言わないなどの配慮を行っている。また、入室する際にはロックを行うなどプライバシーに配慮している。 (外部評価) 利用者に歯磨きを促す時、名前を呼びかけた後、ひと言断ってから誘導しており、利用者の尊厳に配慮していることがうかがえた。居室の名札は、希望に応じて出していないところもある。また、ホーム便りの写真は、家族に掲載の許可を得ている。	※	全職員が、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねるような関わりをしないように、一つひとつの言動に配慮していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日常の関わりを大切に利用者との信頼関係を築き、利用者が思いや希望を表せるように努めている。また、職員が何もかも決めてしてしまうのではなく、利用者の意志を尊重して、利用者自身で決めたり納得した生活ができるよう支援している。	※	利用者との信頼関係を深めていき、利用者が思いや希望を表せやすくするよう努めていききたい。また、利用者の意思を尊重して、利用者自身で決定したり納得した暮らしができるように支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所や職員の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりに寄り添って、利用者のペースに合った支援を心掛けている。 (外部評価) 運営者、管理者ともに、時間で区切る生活ではなく、自由な生活を支援していきたいと考えており、利用者が希望する過ごし方を支援している。食事の時間も希望に応じて柔軟に対応しており、他の利用者と一緒に食事をすることに気兼ねがある利用者には後から食事を出し、落ち着いて食べてもらうなど配慮している。	※	利用者一人ひとりのペースを大切に、その人らしく過ごして頂けるように、職員はゆっくりと時間をかけて関わるように心掛けて支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) その人が昔から着ていた服を持って来ていただき、本人に聞きながら着替え等を行っている。要望に応じて移動の理容室の方に来ていただいたり、理容・美容のお店に行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせて、職員と一緒に食事の準備や食事後の後片付けを毎日行っている。 (外部評価) 利用者と会話しながら食事の準備、食器拭き等の片付けをしている。手伝ってもらったことを食事中に話題にするなど、楽しい雰囲気づくりに努めている。また、パン、おかゆ、ごはんを自分の好みで選ぶことができる。	※	利用者一人ひとりの状態を配慮して、職員と一緒に食事の準備や後片付け等を行ってほしい。食事の時間が楽しめるように、会話を増やす等の関わりを工夫していきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の希望により、喫煙を好きなききに支援している。飲酒に関しては、現在要望が聞かれないため、行事の際に提供している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、職員や家族の方に排泄状況を聞いたり、入所されてから2週間は24時間の排泄リズムを記録し、それらを基に一人ひとりに合った排泄のケアを行っている。	※	全職員が、利用者の羞恥心に配慮して、一人ひとりの排泄パターンに合った支援を行っていききたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴の有無を確認して、希望がある場合には時間の希望も聞いている。できる限りいつでも入浴できるように支援している。 (外部評価) 利用者の希望する日、時間に入浴できるよう支援している。本人が希望しない場合も、3日を目安に入浴を促しており、入浴拒否のある方も、信頼する職員の介助によってスムーズに入浴できている。可動式の手すりや滑り止めマットの利用、浴槽の両側から介助できる設えで、安全にも十分配慮している。	※	職員の都合に合わせるのではなく、利用者の希望を大切に、入浴したい時にいつでも入浴できるように支援していききたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 以前利用されていた事業所や家族、利用者から生活習慣等を聞いたり、入所されてから2週間は24時間の生活リズムを調べて、利用者にとって合った生活が支援できるように努めている。	※	利用者一人ひとりの、その時々々の状態を判断して、快適に休息や睡眠が取れるように支援していききたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) センター方式を活用して、本人や家族より得た情報を参考に、職員間で話し合い、個々にあった支援をしている。 (外部評価) 利用者との会話の中から希望を把握し、将棋やトランプ・花札と一緒に楽しんだり、趣味の生け花を職員に習ったり、大正琴を弾いている方もいる。魚をさばくのが上手な方にお刺身をつくってもらったり、マッサージの経験がある方に職員が揉んでもらうなど、過去の経験を活かす場を設けている。また、行事での外出も支援している。	※	日々充実して過ごせるように、個々の心身の状況を把握して支援していききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、個々にあった方法で、本人や事業所がお金を管理している。	※	本人や家族と話し合い、できる限り本人が自己管理できるよう、また、必要な場合には使用できるように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には海岸沿いを散歩している。また、買い物など、希望があればできる限り行くように支援している。	※	利用者一人ひとりのその日の希望に添えるように、外出したいときに外出できるようにできる限り支援していきたい。
			(外部評価) 気候の良い季節には、天気の良い日に週2～3回散歩に出かけている。また、買い物も希望に応じて出かけている。週1回、パンの移動販売に来てもらっており、利用者は自由に買物を楽しんでいる。	※	外出は、利用者の気分転換だけでなく、地域とのふれあいの機会にもなるため、利用者の状態に応じて戸外に出かけ、利用者一人ひとりが楽しめる外出支援の工夫を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 毎月1回石手寺に参拝に行ったり、季節事にバラ園や菊花展等に行っている。また、昔よく行かれていたという場所や、以前過ごされていた場所にドライブ等で外出する機会を設けているが、なかなか個別での対応は実施できていない。	※	利用者一人ひとりに、行ってみたい所などを話す機会を設けて、職員間や家族と話し合い、個別でも外出する機会を増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時に、電話を掛ける支援をしている。	※	家族や友人との繋がりを継続させるためにも、月に一回でも、家族や知人に電話や手紙でのやり取りができるように支援していきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問に来られた際には、居室やリビング、広いテーブルのある食堂など、好きな所で過ごしていただいている。	※	家族や馴染みの方が気軽に訪問できるように、職員と利用者が話し合い、一緒に環境づくりを行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 運営者、全職員が身体拘束をしてはいけないと理解しており、身体拘束は行っていない。しかし、事業所内での勉強会で身体拘束について勉強しただけであり、詳しい法令等を学んでいない。	※	運営者、全職員が、身体拘束についての法令等を正しく学ぶため、事業所内での勉強会はもちろんのこと、外部での勉強会に参加し、学んでいきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけることは拘束につながると運営者・全職員が理解しており、利用者の自由な生活を支援するため、夜間帯以外は玄関に鍵をかけていない。 (外部評価) 日中は玄関に鍵をかけないケアを実践しており、外出傾向のある利用者を全職員が把握し、見守りによって安全に配慮している。外出の際は職員が同行しながら利用者が自由に出かけられるよう支援している。	※	利用者の自由な生活を支援するために、夜間帯以外は玄関の鍵をかけないようにする。もしも鍵をかけなければいけない場合には、本人や家族に理由を説明し、了承を得るようにする。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 朝と夕方の引継ぎや、日中は職員間で声を掛け合い、利用者がどこにおられるのか、どのような状況か、把握するようにして安全に配慮している。	※	利用者のプライバシーに配慮しながら、職員間で声を掛け合い、所在や状態を把握して安全に配慮していきたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 薬や洗剤、刃物類などの注意の必要な物品は、職員間で保管場所や保管方法を話し合い、取り組んでいる。	※	注意の必要な物品をなくすのではなく、その都度職員間で話し合い、保管方法等を取り決めていきたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアル等を作成したり、ミーティングノート等で職員に注意するよう声かけを行い、事故防止に努めている。また、個々の状態に注意し、誤嚥の可能性のある入居者に関しては、食べ物を細かく刻んで提供する等の取り組みをしている。	※	事業所内で勉強会を行うなどして、事故防止に対する意識を高めていきたい。また、事故が起こった際に適切に処置ができるように各種の研修等にも参加していきたい。利用者の状態把握を行い、危険予測を行い、事故防止に努めたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成しているが、急変時など全職員が対応できるわけではない。	※	事業所内での勉強会や外部の研修などに積極的に参加して、全職員が対応できるようにしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域運営推進会議にて地域の方にアドバイスを頂き、マニュアルを作成し直した。4月に消防署の方に来ていただいて避難訓練を実施するので、その際にも助言等をいただき、マニュアルを作成し直す予定。	※	事業所内で勉強会を行ったり、外部の勉強会などに参加して、防災の知識を高めていきたい。また、地域の方々にも協力して頂けるような関係づくりも行っていきたい。
			(外部評価) ホームの立地条件上、津波や水害についてのマニュアルを詳細に作成し、消防署や地域の方からの助言を得ている。今のところ、昼間想定避難訓練を利用者とともに年1回行っている。たばこを吸う利用者が喫煙したい時には職員が灰皿を提供し、一緒に会話を楽しみながら喫煙するようにして、火災防止にも配慮している。	※	夜間を想定した避難訓練や、地震や水害等の非常災害時を想定した避難訓練も実施することを期待する。また、現在作成しているマニュアルの重要部分を抜粋し、災害時に一目で手順が分かるものを別に作成しておくことや、地域住民や消防団等の協力が得られる体制づくりを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族会にて、起こり得るリスクについて説明はしており、参加されていない家族には、面会時や電話等で説明している。	※	面会時や家族会等で、家族と時間をかけて話す機会を設け、利用者のリスクや対応策について話し合うようにしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝の挨拶時やBD測定時、日中の様子観察により、体調の異変等を発見するように努め、異変時には速やかに職員間で情報を共有している。	※	利用者一人ひとりの日常生活の状況を把握して、ちょっとした変化も逃さないように努めていきたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況は、各々のケースファイルと内服薬・外用薬ファイルに綴じており、いつでも見られるようにしている。また、ミーティングノートや記録に残し、全職員で情報を共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝食時に乳製品を提供したり、朝・昼・晩3食の内2食は汁物を提供するようにしている。また、水分をあまり摂らない利用者には、その方の好む飲食物を提供するなどの工夫をしている。	※	体操や散歩、日常生活の中で身体を動かす機会を増やしていくように、職員間で話し合い、取り組んでいきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声かけやうがい、義歯の洗浄・管理など、利用者の状況に合わせた対応をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、家族や職員に食事状況を聞き、情報を参考に本人や職員間で話し合い、利用者個々に合った対応をしている。また、食事量、水分量等を個々に記録として残している。昨年は市の保健センターの方に来ていただき、献立・衛生面での助言・アドバイスをいただいた。 (外部評価) 毎日、食事及び水分摂取量を記録し、必要量が確保できるよう、主食や飲み物は好みのものを、誤嚥の危険がある方には刻み食を提供している。市保健センターの保健師より、季節の食材の利用、手作りおやつ等の提供等の助言を受け、運営に活かしている。	※	今後も市の保健センターと連絡を取り合い、利用者個々に応じた対応を支援していきたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成しており、それに応じた対応を実行している。また、玄関先に手指消毒用の消毒液を設置している。	※	感染症に対する知識を学ぶため、事業所内や外部での勉強会に参加していきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 職員間で、台所や調理器具等の衛生方法を取り決めて実施している。食材に関しては、生ものは新鮮なものを購入し、早く使用するように努めている。	※	食中毒に関する知識を学ぶため、事業所内や外部での勉強会に参加していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には階段とスロープがあり、車椅子の方でも安全に出入りできるようになっている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、暗くならないように電気を付けておくように配慮したり、カレンダーや季節の装飾を飾ったりしている。 (外部評価) 庭に咲いている花を洗面台に飾る、こいのぼりを壁面に飾るなど、季節を感じられるようにしている。洗面所の低い位置にも鏡を付け、車いすの利用者でも見えるよう配慮している。利用者が口ずさめる童謡をかけ、明るい雰囲気づくりをしている。全体的に落ち着いた色調で整えられた共用空間となっている。	※	職員の観点で居心地の良い空間づくりをするのではなく、利用者の観点から居心地の良い空間づくりを行うように、利用者と職員が話し合いながら工夫していきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 車椅子の方でも、自由に行き来できるようにスペースの確保を行っている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 事前調査や施設見学に来られた際に、本人が使い慣れたものをなるべくお持ち頂けるように意図も説明している。 (外部評価) ベッド、箆笥、衣装ケース、いす、テレビ等を持ち込み、壁面を自分の作品もので飾ったり、家族の写真を置いたり、利用者一人ひとりその人らしい居室で居心地良く過ごせるようになっている。また、ホームは全室フローリングであるが、畳を敷きつめている方もいる。	※	利用者や家族とよく話し合い、本人にとって安心して居心地よく過ごせる居室づくりができるように支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日掃除の際に換気を行い、温度調整に関しては、利用者に寒さ暑さの有無を聞いて、冷暖房を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下・浴室に手すり等を設置し、安全な移動ができるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や状態に配慮して、できることはしてもらったり、職員と一緒にしている。また、混乱や失敗をした際にはきちんとフォローを職員がしている。	※	利用者一人ひとりの性格や状態を配慮して、混乱や失敗を未然に防ぐように努めていきたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花や野菜を植えるなどして、利用者が園芸などを楽しめるようにしている。	※	利用者一人ひとりが、自由に建物の外回りや建物内を活用できるように、利用者から要望などを聞いたりして支援していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入所時から、センター方式を活用して情報収集を行ったり、利用者との日々の関わりの中で、思いや願い、暮らし方の意向等を聞くように配慮しているため。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	時間を区切って何かをするということは決めてはいないので、その日その日で時間が空いたときに、リビングや居室等で一緒にゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時間を区切って何かをするということは決めてはいないので、利用者一人ひとりがしたいことをしたい時にその方のペースで暮らしている。しかし、中には何をしたいのか自分で決めかねている方もおられるので、そのような場合には、利用者の性格や状態に合った支援を行うようにしているため。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事準備や洗濯物を干したりたたんだり、特に家事仕事を一緒に行う際には、一段と多くの笑顔や生き生きとした表情や姿が見られているため。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外に行きたいと意思表示されたり、言葉で外に行きたいとは言われないが、玄関先に行こうとされる行動が見られれば、職員は利用者の行動を読み取り、声をかけて散歩等に行くように支援しているため。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のBD測定の実施や、医療協力機関や以前からのかかりつけ医との連携により、緊急時等はすぐに対応できるようにしているため。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりの状況や要望に応じることができるように、その都度職員間で話し合い、できる限り要望に添える支援を行っているため。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	度々面会や連絡がある家族とは信頼関係が築けており、様々な話ができていくが、滅多に面会や連絡が取れていない家族とはまだまだ信頼関係が築けていないため。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	グループホームに馴染みのある方はたまに来られるが、地域の方々とはまだまだ交流不足であるため。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の回数を重ねるごとに、地域の方々や関係機関からの助言等を頂けるようになってきたため。今後も積極的に地域や関係機関とのつながりを深めていくように努めていきたい。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間でのコミュニケーションがよく取れており、職場の雰囲気の良いため。また、運営者の中には職員として働いている方もおられ、職場の状況に対してよく分かっており、理解があるため。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりの性格や状態に合わせた支援をするように、職員間で話し合っており、利用者の意志を尊重したり関わりを行っているため、不満や苦情はあまり聞かれないため。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会や電話、家族会、アンケート等で、家族からの不満や苦情を聞いたことはめったにないが、サービスに対しての喜びや感謝の言葉は多く聞かれるため。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・時間を区切って何かをするということは決められていないので、利用者一人ひとりが自分の自宅で過ごしているように、自由にしたいことをしたい時に行うことができるよう支援している。
- ・利用者一人ひとりの性格や趣味、状態に応じた外出(石手寺参拝・買い物等)や行事など、個性を尊重した支援に力を入れている。
- ・隣接した建物が周囲にないため、日当たりが良く、圧迫感もないため建物内外が開放的である。
- ・施設の前には瀬戸内海が広がり、天気の良い日には広島県が見えて景色が非常に良い。特に2階からの眺めがとても良く、見学で来られた家族や本人もその眺めを気に入られ、その場で入所を決められる場合も多々ある。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 司

(ユニット名)

かもめ ユニット

記入者(管理者)

氏名

家里 定子

評価完了日

平成 20 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 『満足のいく生活をする為に、個人の自由と尊厳を守り、優しく暖かい心を持って接します』という理念があり、理念が具体的に分かり易く理解できるよう『・言動に対してまずは否定しない。・尊敬の気持ちを忘れない。・したいことができるよう支援する。・笑顔で接する。』という目標を全職員で話し合いつくりあげた。 (外部評価) 全職員が話し合い、理念が日々のケアに活かせるよう、具体的な目標を作り上げている。契約書に、利用者の権利として地域社会の一員として生活することを明記し、地域の中で満足のいく生活を送ることができるよう支援していくことを理念に込めている。	※	職員で、理念に対する目標をつくりあげたことで、理念が明確になり、利用者によりよいサービスを提供することが少しずつでもできるようになっている。今後も理念が日々のケアに活かしていけるように努めていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関、リビング、重要事項にも記載し明記している。 (外部評価) 理念と具体的な目標を玄関、リビングに掲げ、パンフレット・重要事項説明書に理念を明記し、共有している。2～3か月に1回、職員会で理念の実践について話し合い、日々のケアに活かしている。具体的目標を作り上げたことで、職員が笑顔を心がけ、利用者からの要望が出やすくなる等、サービスの質の向上につながっている。	※	職員会で、全職員が日々理念に沿った支援が利用者に対して行えているか再確認していく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族に対しては、入居契約時に説明している。地域の人々に対しては浸透できていない。	※	地域の人々にも事業所のことを知ってもらえるような取り組みを事業所、運営推進会議等で話し合い、積極的に行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩などで通りかかったら挨拶をする程度で、気軽に立ち寄ってもらえるまでには至っていない。	※	近隣の人々が気軽に立ち寄っていただけるよう、職員会などで話し合い工夫して努めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の夏祭りや小学校の運動会に参加したりと、除々にはあるが地域の人々との交流の機会を持つよう努めている。	※	積極的に地域の行事などに参加するように努めていきたい。また、地域の人々にも当ホームの行事に参加してもらえるように努めていきたい。
			(外部評価) 地域の保育園を訪問したり、小学生の社会学習や中学生の体験学習を受け入れたりしている。また、小学校の運動会にも参加している。運営推進会議で地域行事について情報を得て、夏祭りに利用者とともに参加し、秋祭りでは地域の方や小学生に獅子舞に入ってもらおう等、地域交流を進めている。	※	婦人会やサロンとの交流や地域の奉仕活動にも積極的に参加していくことをホームとして検討しているため、これらの交流を通して地域とのつながりがさらに深まることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者の方々と交流する計画を立てていたものの、実現できていない。	※	職員会や運営推進会議などで話し合い、地域に貢献していけるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営者、全職員がサービス評価を受ける意義や目的を理解し、日々の運営状況を評価項目を参考に直視し、運営者と職員が話し合い、改善できる点は改善に取り組んでいる。また、前回の外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組んでいる。	※	外部評価の結果を職員会で話し合い、改善に向けての具体的な案を検討し、日々のケアに反映するために努めている。
			(外部評価) 評価の意義を十分理解しており、前回評価の後、全職員で話し合い、改善計画を作成し、積極的に改善に取り組んでいる。改善計画についての評価も職員会で話し合い、意識統一できている。自己評価は主に管理者と各ユニットリーダーとで行っている。	※	ホームの勉強会で評価について取り上げ、全職員が項目内容を理解した上で自己評価に取り組むことで自らのケアの振り返りの機会とすること、さらに職員一人ひとりがサービスの質の向上のためにホームが取り組むことについて考え、意見を出し合うことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、家族や地域の方の意見を参考にしてサービスの向上に活かしている。昨年は、民生委員より地域の夏祭りの話を聞き、利用者に参加することができた。今後も地域の行事に参加していきたい。 (外部評価) 運営推進会議の開催を重ねるごとに、地域の方から率直な意見が多く出るようになり、地域行事への参加等運営に活かしている。メンバーである民生委員が、ホームが計画している婦人会やサロン等との交流に協力的で、ホームが地域とのつきあいを深めていく推進力となっている。	※	運営推進会議で頂いた情報を基に、地域の行事などに参加し、地域との関わりを深めていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 毎月ある地区のサービス調整会議に出席している。 (外部評価) 地域包括支援センター主催の地区サービス調整会議に毎月出席し、情報交換している。また、センター方式の研修会等も開かれており、ホームの運営に活かしている。市職員の紹介で、市保健センター保健師から栄養指導を受け、手作りのおやつを出すようになり、利用者からも喜ばれている。	※	今後も毎月地区のサービス調整会議に出席していき質の向上に取り組んでいきたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員が制度に対して理解はできていない。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が制度に対して理解し、必要な場合には活用できるようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について全職員が理解しており、事業所では虐待について防止できている。高齢者虐待防止関連法については、事業所内での勉強会の際に学ぶ機会を持った。	※	事業所内での勉強会や外部での勉強会に積極的に参加して、全職員が高齢者虐待防止関連法について学んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に家族や利用者に会い、入居対象者であるか検討し、その際医療体制について詳しく説明もしている。契約時には、家族だけでなく利用者にも立ち会ってもらい、分かり易い説明を行うように心掛け、理解・納得を得ている。	※	家族や利用者にとって分かり易い説明を行うように心掛け、その都度不安や疑問などはないか確認をして、理解・納得を図っていききたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者が個々に信頼している職員に、意見・不満・苦情等を伝えている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 事業所で預かっている金銭に関しては、金銭出納帳を作成して、毎月利用料の請求書を郵送する際コピーを同封している。健康状態等は、面会に来られた際や電話、定期的に発行している便りにて報告している。 (外部評価) 面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。また、状態に変化が見られた際には電話でも連絡している。毎月の請求書を送付する際に手紙と金銭出納帳のコピーを添え、遠方で面会の少ない家族にも利用者の近況がわかるよう配慮している。さらに、季刊のホーム便りに、個人情報に配慮しながら利用者の写真や記事を載せている。	※	金銭出納帳に関しては、家族が面会時に来られた際に、確認の印鑑を押していただけるようにしていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を開いたり、面会の際に、意見・不満・苦情等を聞いている。また、苦情相談機関を事業所と外部に設けており、そのことを重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。 (外部評価) 年2回の家族会開催時や面会時、電話等で家族等の意見を傾聴している。家族からの要望には速やかに対応するよう心がけている。また、苦情相談窓口をホーム内と第三者機関に分けて重要事項説明書に明記し、契約の際に説明している。	※	家族が気軽に意見や不満等を表せるように、事業所内に意見箱を設置したり、家族会などの機会を今後も設けていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者は、日々職員と関わる機会を設け、意見や提案を運営に反映させている。	※	職員が、運営に関して意見や提案を言い易い機会を設けていき、運営者や管理者は運営に反映させるようにしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状態や生活のペースに対応できるように、職員間で話し合い勤務を組んでいる。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) やむをえず職員等が離職する場合には、後任に引き継ぎを行い、利用者や業務に影響を及ぼさないように努めている。 (外部評価) 運営者は現場の様子を把握し、職員が働きやすい環境づくりに努めている。職員間のコミュニケーションがよく取れていることもあり、離職が抑えられている。また、利用者にとって馴染みの関係が大切であることを十分認識し、ユニット間の異動も行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外での研修では、分かり次第情報を提供し、参加を呼びかけたり希望を聞き入れ、常勤、非常勤関係なく参加している。その際、参加していない職員にも分かるよう職員会で報告したり、資料を作成し、共有できるようにしている。事業所内では定期的に勉強会を設けている。 (外部評価) 地区サービス調整会議や県社会福祉協議会主催の研修に全職員が交代で参加し、伝達講習している。職員の育成のため、運営者はできるだけ出勤扱いで研修に参加できるよう配慮している。ホーム内でも、虐待や拘束、記録の書き方等について月1回勉強会を開きレベルアップを図っている。	※	今後も事業所外で開催される研修には積極的に参加するように情報を通知し、事業所内での勉強会も定期的に設けていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 毎月開催されている地区のサービス調整会議に出席して、ネットワークを作り情報交換を行い、サービスの質を向上させるよう努めている。	※	事業所の集まりには積極的に参加していき、他の事業所との交流を図り、サービスの質が向上するように努めていきたい。
			(外部評価) 月1回の地区サービス調整会議で同業者と交流・情報交換する機会があり、そこで学んだことをサービスの質の向上に役立てている。	※	地区サービス調整会議での交流をさらに深め、相互のホームを見学したり、相互研修に発展させて他ホームの実践を取り入れたり、自ホームの実践を紹介したりできる関係づくりに期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者は、時折業務に参加したり、積極的に職員と関わりを持つようにして、業務での悩みや意見を言いやすい環境をつくるように努めている。	※	定期的に親睦会や慰安旅行等を開催して、運営者や職員が気軽に話し合い、ストレスが軽減できるように努めていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 業務の合間等に職員と話をし、業務内容、勤務状況、意見等を聞くようにし、働きやすい環境づくりをしている。	※	職員の努力や実績に対して、本人に直接声をかけ称えたり、賞状または賞与を授与していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等をゆくりと時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めている。	※	利用者にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆくりと時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査や見学時に、困っていることや不安なこと、求めていること等をゆくりと時間をかけて聴く機会を設けて、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めている。	※	家族にとって困っていることや不安なこと、求めていること等をゆくりと時間をかけて聴く機会を設け、全職員で情報を共有して受けとめ、安心していただけるように努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族からの思いや悩み等の話を時間をかけて聴き、職員間で今どのような支援が必要なのか話し合い、対応するように努めている。	※	本人や家族からの話を時間をかけて聴き、どのような支援を最優先に行うべきか職員間で話し合って対応していきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族だけで入所を決めるのではなく、本人にも施設を見学してもらった上で入所されるかどうかを決めていただく様に努めている。 (外部評価) 入居前に利用者の自宅または入院先等を訪問して事前調査を行い、利用者や家族に見学に来てもらっている。2～3日、食事の時間を一緒に過ごしてから入居する、1週間の体験入居をする等、利用者に応じて馴染みながら入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員だけが何もかも行うのではなく、一緒にできることは利用者の方にもしていただき、時間の共有ができるように心掛けている。 (外部評価) 利用者との会話を楽しみながら一緒に家事をしている。利用者から感謝の言葉や、心を許して本音で話をされた時等には喜びを感じ、働く意欲につながっている。職員が手を取り、目を合わせて声をかけると表情が和らぐ場面があった。手伝いの後の職員のねぎらいの言葉に、利用者が気持ちよく答えている姿も見られた。	※	利用者一人ひとりには人生の先輩であるということ念頭に置いて、できることはして頂いたり職員と一緒にいたり、共に支え合って生活しているという関係を築いていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた際や電話、定期的に発行している便りにて、本人の最近の状態などを報告し、家族が本人の今の状態が把握できるように努めている。	※	家族の方に、面会や電話、便りなどで利用者の生活状況などを報告し、本人の現在の姿を知って頂き、共に支え合っていく関係を築いていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人が家族の面会を待ち望まれていたことなどを伝えて、本人にとって家族はかけがえのないものであるということを知って頂くように努めている。	※	利用者と家族の関係が途切れてしまわないように、職員が間に入ってお互いの思いを伝えたりと支援を工夫して、より良い関係が築いていけるように努めていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣から入所された方が増えてきたため、一部ではあるが顔馴染みの方たちが集まり、懐かしんでお話されている姿をよく目にするが増えてきた。家族等には、時間があれば面会に来てくださるようお願いをしている。	※	利用者にとって馴染みのある方や場所との関係が途絶えてしまわないように、利用者の思いを聴く機会を設けて、職員が間に入って関係が継続できるように努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者の様子を観ながら、孤立しないようにさりげなく声かけを行ったり、レクレーションや家事などを一緒にして頂くように努めている。	※	利用者一人ひとりの性格や状態、利用者同士の人間関係を把握して、職員は利用者同士のより良い関係が築いていけるようにさりげなく支援していきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 今現在はそのような方はおられないが、今後はそういう取り組みも行っていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や本人と話し合い、情報収集を行い、暮らし方の希望や意向の把握に努めたり、本人と他の入居者との会話の内容にも耳を傾けるようにしている。 (外部評価) センター方式の用紙を事前に家族に記入してもらい、情報収集に努めている。職員が利用者の希望等に気付いた時には個別ケース記録やミーティングノートに記入し、情報を職員間で共有している。利用者が自分の思いを表明できるよう、利用者との対話を大切にしている。	※	全職員が利用者一人ひとりの思いや意向を把握するように、利用者のさりげない言動も逃さないように配慮しながら、情報収集をしていくように努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、本人や家族からの情報収集により把握するように努めている。	※	利用者のその人らしい生活を支援していくために、これまでの生活状況を本人や家族、以前利用していた事業所等で情報収集をし、全職員で情報を共有するように努めていきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) センター方式や日々の状態を記録して参考にし、職員間で話し合い、現状を把握するように努めている。	※	利用者のちょっとした変化も逃さないように、利用者との関わりを大切にして、全職員が現状を把握するように努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) できる限り本人の意志を尊重し、介護計画を作成するようにしている。本人の希望等が分からない場合は家族に聞くようにして、作成するようにしている。また、職員がカンファレンスで話し合い、作成している。 (外部評価) 介護計画について学習会を開き、全職員が理解した上で一人ひとりが気付きを出し合っている。本人や家族の希望を反映させた介護計画を作成している。	※	スタッフのみで作成するのではなく、本人、家族を交えての話し合いも行って介護計画を作成していきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画に応じた見直しを行っている。それ以外でも状態が変化した際には、カンファレンス等を行いながら見直している。 (外部評価) 生活記録にケアプランの援助内容を明記し、毎日実施状況を記録し、見直しに活かしている。基本的には、3か月に1回新しい計画を作成しているが、計画作成担当者がモニタリングし、状態変化が見られた場合や利用者の希望等が変化した場合には随時見直している。	※	本人の状態に合わせた見直しを行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録やミーティングノート等に、日々の気づき等を記入し、ケアに反映するよう努めている。	※	個別記録やミーティングノートに書かれていることを全職員が把握するように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が面会に来られた際には、本人の普段の様子を説明し、要望があった際にはミーティングノートや引継ぎ時に伝達したりしている。 (外部評価) 家族の希望に応じて通院介助している。利用者の状態を把握した上で、通院が困難な場合には、家族の了承を得、主治医に往診を依頼し、利用者の負担を減らすよう努めている。	※	利用者や家族が、気軽に要望を言えるような関係や環境を築き、要望があった際には全職員で情報を共有して、柔軟な支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 昨年より、地域の小学校・保育所と交流を持てるようになった。今後も交流を持っていきたい。また、地域のサロンの方とも民生委員を通じて交流をしていきたい。	※	昨年より地域の小学校・保育所と交流を持てるようになった。今後も交流を持っていきたい。また、民生委員や他の関係機関の方にも協力して頂き、地域の方とも交流していきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の身体状況・意向に合わせて、病院でのリハビリを行ってもらったり、訪問看護に来てもらったりしている。	※	本人や家族の意向が実現できるように、様々な関係機関と協力し、支援していきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂き、ご意見やアドバイス等を頂いているが、それ以外での関わりは特にはない。ご本人の意向や必要性があれば、協力をお願いし、支援していきたい。	※	本人の意向や必要性に応じて、様々な関係機関等と協力しながら支援していきたい。また、地域包括支援センターと協働していけるように関係づくりを行っていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の要望を聞き入れ、以前からの主治医が良い場合には継続して受診・往診ができるように支援している。 (外部評価) 本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医となっている。馴染みのかかりつけ医を継続する場合も、受診介助や往診依頼による受診支援を行っている。遠方の病院受診の時は、家族に受診介助をしてもらっているが、利用者の状態を伝え、受診後の報告を聞き、適切な医療が受けられるよう支援している。	※	本人や家族の要望を大切に、主治医が継続できるようにしていきたい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 不穏状態が続いたり、明らかに様子がおかしい場合には家族の承諾を得て、受診し相談している。	※	全職員が利用者一人ひとりの状態を把握し、変化を察知して、緊急時には家族の承諾を得て、いつでも認知症専門医に受診したり、相談できるように支援していきたい。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員は不在であり、出来ていないが、准看護師の資格保持者が介護職で在職しているため、健康管理や医療活用の支援ができるように努めている。	※	利用者のかかりつけの看護職等と相談しながら、健康管理や医療活用の支援できるようにしていきたい。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、できるだけ早期に退院できるように、医療機関と連絡を取り合い、情報を共有したりと退院に向けて協力し合っている。	※	早期退院できるように、医療機関と連携を取り合い、情報を共有して協力し合っていきたい。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時や家族会等で、当ホームでできる限界を家族に文章で説明している。重度化した場合についても、状態に応じて話し合いをしている。 (外部評価) 入居時及び状態が変化した時には、重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の希望を聞き、ホームでできること・できないことを説明している。家族の気持ちは状態に応じて変化することを認識し、状態変化の都度話し合いをする必要性を理解している。	※	家族会で終末期ケアについての話し合いを行っている。今後も繰り返し行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医療行為が必要な場合は、受け入れできないことを入所時や家族会で説明している。また、状態が変化した場合は、その都度かかりつけ医に相談し、支持を仰いでケアを行っている。状態に変化が合った場合は家族にも報告し、今後どうしていくかも相談している。	※	今後もホームできること・できないことを家族に明確にし、かかりつけ医と連携を図りながら、ここでの生活が一日でも長く送れるように支援していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入所前に家族及び本人と話し合い情報交換を行っている。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めている。	※	家族及び本人と話し合い、情報交換を行っていききたい。また、以前利用されていた事業所からのサマリーやセンター方式を活用して、ご本人の状態を把握するように努めていききたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 本人や家族からの情報を基に、利用者の性格等の把握に努めて、言葉遣いの配慮を行っている。また、記録物等は目に触れない所に保管している。 (外部評価) 利用者に歯磨きを促す時、名前を呼びかけた後、ひと言断ってから誘導しており、利用者の尊厳に配慮していることがうかがえた。居室の名札は、希望に応じて出していないところもある。また、ホーム便りの写真は、家族に掲載の許可を得ている。	※	全職員が利用者に対してプライバシーを守れるように関わりを持ち、言動に配慮していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日常の関わりを大切に利用者との信頼関係を築き、利用者が思いや希望を表せるように努めている。また、職員が何もかも決めてしてしまうのではなく、利用者の意志を尊重して、利用者自身で決めたり納得した生活ができるよう支援している。	※	利用者と職員との信頼関係を深めていき、利用者が思いや希望を表せやすくするよう努めていきたい。また、利用者の意思を尊重して、利用者自身で決定したり納得した暮らしができるように支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所や職員の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりに寄り添って、利用者のペースに合った支援を心掛けている。 (外部評価) 運営者、管理者ともに、時間で区切る生活ではなく、自由な生活を支援していきたいと考えており、利用者が希望する過ごし方を支援している。食事の時間も希望に応じて柔軟に対応しており、他の利用者と一緒に食事をすることに気兼ねがある利用者には後から食事を出し、落ち着いて食べてもらうなど配慮している。	※	利用者一人ひとりのペースを大切に、その人らしく過ごして頂けるように、職員はゆっくりと時間をかけて関わるように心掛けて支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) その人が昔から着ていた服を持って来ていただき、本人に聞きながら着替え等を行っている。要望に応じて移動の理容室の方に来ていただいたり、理容・美容のお店に行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせて、職員と一緒に食事の準備や食事後の後片付けを毎日行っている。 (外部評価) 利用者と会話しながら食事の準備、食器拭き等の片付けをしている。手伝ってもらったことを食事中に話題にするなど、楽しい雰囲気づくりに努めている。また、パン、おかゆ、ごはんを自分の好みで選ぶことができる。	※	利用者一人ひとりの状態を配慮して、職員と一緒に食事の準備や後片付け等を行っていききたい。食事の時間が楽しめるように、会話を増やす等の関わりを工夫していきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人の希望により、おやつ、お酒を好きなききに支援している。	※	病気などで制限がない限り、希望が実現できるように支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、職員や家族の方に排泄状況を聞いたり、入所されてから2週間は24時間の排泄リズムを記録し、それらを基に一人ひとりに合った排泄のケアを行っている。	※	全職員が、利用者の羞恥心に配慮して、一人ひとりの排泄パターンに合った支援を行っていききたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴の有無を確認して、できる限りいつでも入浴できるように支援している。 (外部評価) 利用者の希望する日、時間に入浴できるよう支援している。本人が希望しない場合も、3日を目安に入浴を促しており、入浴拒否のある方も、信頼する職員の介助によってスムーズに入浴できている。可動式の手すりや滑り止めマットの利用、浴槽の両側から介助できる設えで、安全にも十分配慮している。	※	利用者の希望を大切に、入浴したい時にいつでも入浴できるように支援していききたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 以前利用されていた事業所や家族、利用者から生活習慣等を聞いたり、入所されてから2週間は24時間の生活リズムを調べて、利用者にとって合った生活が支援できるように努めている。	※	利用者一人ひとりの、その時々々の状態を判断して、快適に休息や睡眠が取れるように支援していききたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) センター方式を活用して、本人や家族より得た情報を参考に、職員間で話し合い、個々にあった支援をしている。 (外部評価) 利用者との会話の中から希望を把握し、将棋やトランプ・花札と一緒に楽しんだり、趣味の生け花を職員に習ったり、大正琴を弾いている方もいる。魚をさばくのが上手な方にお刺身をつくってもらったり、マッサージの経験がある方に職員が揉んでもらうなど、過去の経験を活かす場を設けている。また、行事での外出も支援している。	※	日々充実して過ごせるように、個々の心身の状況を把握して支援していききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、個々にあった方法で、本人や事業所がお金を管理している。	※	本人や家族と話し合い、できる限り本人が自己管理できるよう、また、必要な場合には使用できるように支援していきたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日には海岸沿いを散歩している。また、買い物など、希望があればできる限り行くように支援している。	※	利用者一人ひとりのその日の希望に添えるように、外出したいときに外出できるようにできる限り支援していきたい。
			(外部評価) 気候の良い季節には、天気の良い日に週2～3回散歩に出かけている。また、買い物も希望に応じて出かけている。週1回、パンの移動販売に来てもらっており、利用者は自由に買い物を楽しんでいる。	※	外出は、利用者の気分転換だけでなく、地域とのふれあいの機会にもなるため、利用者の状態に応じて戸外に出かけ、利用者一人ひとりが楽しめる外出支援の工夫を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 毎月1回石手寺に参拝に行ったり、季節事にバラ園や菊花展等に行っている。また、昔よく行かれていたという場所や、以前過ごされていた場所にドライブ等で外出する機会を設けているが、なかなか個別での対応は実施できていない。	※	利用者一人ひとりに、行ってみたい所などを話す機会を設けて、職員間や家族と話し合い、個別でも外出する機会を増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時に、電話を掛ける支援をしている。	※	家族や友人との繋がりを継続させるためにも、月に一回でも、家族や知人に電話や手紙でのやり取りができるように支援していきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問に来られた際には、居室やリビング、広いテーブルのある食堂など、好きな所で過ごしていただいている。	※	家族や馴染みの方が気軽に訪問できるように、職員と利用者が話し合い、一緒に環境づくりを行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 運営者、全職員が身体拘束をしてはいけないと理解しており、身体拘束は行っていない。しかし、事業所内での勉強会で身体拘束について勉強しただけであり、詳しい法令等を学んでいない。	※	運営者、全職員が、身体拘束についての法令等を正しく学ぶため、事業所内での勉強会はもちろんのこと、外部での勉強会に参加し、学んでいきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけることは拘束につながると運営者・全職員が理解しており、利用者の自由な生活を支援するため、夜間帯以外は玄関に鍵をかけていない。 (外部評価) 日中は玄関に鍵をかけないケアを実践しており、外出傾向のある利用者を全職員が把握し、見守りによって安全に配慮している。外出の際は職員が同行しながら利用者が自由に出かけられるよう支援している。	※	利用者の自由な生活を支援するために、夜間帯以外は玄関の鍵をかけないようにする。もしも鍵をかけなければいけない場合には、本人や家族に理由を説明し、了承を得るようにする。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 朝と夕方の引継ぎや、日中は職員間で声を掛け合い、利用者がどこにおられるのか、どのような状況か、把握するようにして安全に配慮している。	※	利用者のプライバシーに配慮しながら、職員間で声を掛け合い、所在や状態を把握して安全に配慮していきたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 薬や洗剤、刃物類などの注意の必要な物品は、職員間で保管場所や保管方法を話し合い、取り組んでいる。	※	注意の必要な物品をなくすのではなく、その都度職員間で話し合い、保管方法等を取り決めていきたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアル等を作成したり、ミーティングノート等で職員に注意するよう声かけを行い、事故防止に努めている。また、個々の状態に注意し、誤嚥の可能性がある入居者に関しては、食べ物を細かく刻んで提供する等の取り組みをしている。	※	事業所内で勉強会を行うなどして、事故防止に対する意識を高めていきたい。また、事故が起こった際に適切に処置ができるように各種の研修等にも参加していきたい。利用者の状態把握を行い、危険予測を行い、事故防止に努めたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成しているが、急変時など全職員が対応できるわけではない。	※	事業所内での勉強会や外部の研修などに積極的に参加して、全職員が対応できるようにしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域運営推進会議にて地域の方にアドバイスを頂き、マニュアルを作成し直した。4月に消防署の方に来ていただいて避難訓練を実施するので、その際にも助言等をいただいで、マニュアルを作成し直す予定。 (外部評価) ホームの立地条件上、津波や水害についてのマニュアルを詳細に作成し、消防署や地域の方からの助言を得ている。今のところ、昼間想定避難訓練を利用者とともに年1回行っている。たばこを吸う利用者が喫煙したい時には職員が灰皿を提供し、一緒に会話を楽しみながら喫煙するようにして、火災防止にも配慮している。	※	事業所内で勉強会を行ったり、外部の勉強会などに参加して、防災の知識を高めていきたい。また、地域の方々にも協力して頂けるような関係づくりも行っていきたい。 夜間を想定した避難訓練や、地震や水害等の非常災害時を想定した避難訓練も実施することを期待する。また、現在作成しているマニュアルの重要部分を抜粋し、災害時に一目で手順が分かるものを別に作成しておくことや、地域住民や消防団等の協力が得られる体制づくりを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族会にて、起こり得るリスクについて説明はしており、参加されていない家族には、面会時や電話等で説明している。	※	面会時や家族会等で、家族と時間をかけて話す機会を設け、利用者のリスクや対応策について話し合うようにしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝の挨拶時やBD測定時、日中の様子観察により、体調の異変等を発見するように努め、異変時には速やかに職員間で情報を共有している。	※	利用者一人ひとりの日常生活の状況を把握して、ちょっとした変化も逃さないように努めていきたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況は、各々のケースファイルに綴じており、いつでも見られるようにしている。また、ミーティングノートや記録に残し、全職員で情報を共有するように努めている。	※	服薬状況のみのファイルを作成しており、すぐに調べられる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事の際に食物繊維を多く含む食材を提供したり、ラジオ体操、散歩等で身体を動かすように取り組んでいる。	※	体操や散歩、日常生活の中で身体を動かす機会を増やしていくように、職員間で話し合い、取り組んでいきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 声かけやうがい、義歯の洗浄・管理など、利用者の状況に合わせた対応をしている。	※	洗面所の横に個人のコップ、歯ブラシを置いたりして、個々の状態に合った支援をしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 事前調査や入居契約時に、家族や職員に食事状況を聞き、情報を参考に本人や職員間で話し合い、利用者個々に合った対応をしている。また、食事量、水分量等を個々に記録として残している。昨年は市の保健センターの方に来ていただき、献立・衛生面での助言・アドバイスをいただいた。 (外部評価) 毎日、食事及び水分摂取量を記録し、必要量が確保できるよう、主食や飲み物は好みのものを、誤嚥の危険がある方には刻み食を提供している。市保健センターの保健師より、季節の食材の利用、手作りおやつ等の提供等の助言を受け、運営に活かしている。	※	今後も市の保健センターと連絡を取り合い、利用者個々に応じた対応を支援していきたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成しており、それに応じた対応を実行している。また、玄関先に手指消毒用の消毒液を設置している。	※	感染症に対しての知識を学ぶため、事業所内や外部での勉強会に参加していきたい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 職員間で、台所や調理器具等の衛生方法を取り決めて実施している。食材に関しては、生ものは新鮮なものを購入し、早く使用するように努めている。	※	食中毒に関する知識を学ぶため、事業所内や外部での勉強会に参加していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には階段とスロープがあり、車椅子の方でも安全に出入りできるようになっている。	※	四季や行事がわかりやすいように、利用者と職員が共に飾り等を作って、楽しめるように支援していきたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、暗くならないように電気を付けておくように配慮したり、カレンダーや季節の装飾を飾ったりしている。	※	職員の観点で居心地の良い空間づくりをするのではなく、利用者の観点から居心地の良い空間づくりを行うように、利用者と職員が話し合いながら工夫していきたい。
			(外部評価) 庭に咲いている花を洗面台に飾る、こいのぼりを壁面に飾るなど、季節を感じられるようにしている。洗面所の低い位置にも鏡を付け、車いすの利用者でも見えるよう配慮している。利用者が口ずさめる童謡をかけ、明るい雰囲気づくりをしている。全体的に落ち着いた色調で整えられた共用空間となっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 車椅子の方でも、自由に行き来できるようにスペースの確保を行っている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 事前調査や施設見学に来られた際に、本人が使い慣れたものをなるべくお持ち頂けるように意図も説明している。	※	利用者や家族とよく話し合い、本人にとって安心して居心地よく過ごせる居室づくりができるように支援していきたい。
			(外部評価) ベッド、箆笥、衣装ケース、いす、テレビ等を持ち込み、壁面を自分の作品もので飾ったり、家族の写真を置いたり、利用者一人ひとりその人らしい居室で居心地よく過ごせるようになっている。また、ホームは全室フローリングであるが、畳を敷きつめている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日掃除の際に換気を行い、温度調整に関しては、利用者に寒さ暑さの有無を聞いて、冷暖房を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下・浴室に手すり等を設置し、安全な移動ができるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や状態に配慮して、できることはしてもらったり、職員と一緒にしている。また、混乱や失敗をした際にはきちんとフォローを職員がしている。	※	利用者一人ひとりの性格や状態を配慮して、混乱や失敗を未然に防ぐように努めていきたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花や野菜を植えるなどして、利用者が園芸などを楽めるようにしている。	※	利用者一人ひとりが、自由に建物の外回りや建物内を活用できるように、利用者から要望などを聞いたりして支援していきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入所時から、センター方式を活用して情報収集を行ったり、利用者との日々の関わりの中で、思いや願い、暮らし方の意向等を聞くように配慮しているため。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	時間を区切って何かをするということは決めてはいないので、その日その日で時間が空いたときに、リビングや居室等で一緒にゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時間を区切って何かをするということは決めてはいないので、利用者一人ひとりがしたいことをしたい時にその方のペースで暮らしている。しかし、中には何をしたいのか自分で決めかねている方もおられるので、そのような場合には、利用者の性格や状態に合った支援を行うようにしているため。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事準備や洗濯物を干したりたたんだり、特に家事仕事を一緒に行う際には、一段と多くの笑顔や生き生きとした表情や姿が見られているため。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外に行きたいと意思表示されたり、言葉で外に行きたいとは言われないが、玄関先に行こうとされる行動が見られれば、職員は利用者の行動を読み取り、声をかけて散歩等に行くように支援しているため。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のBD測定の実施や、医療協力機関や以前からのかかりつけ医との連携により、緊急時等はすぐに対応できるようにしているため。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりの状況や要望に応じることができるように、その都度職員間で話し合い、できる限り要望に添える支援を行っているため。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	度々面会や連絡がある家族とは信頼関係が築けており、様々な話ができているが、滅多に面会や連絡が取れていない家族とはまだまだ信頼関係が築けていないため。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	グループホームに馴染みのある方はたまに来られるが、地域の方々とはまだまだ交流不足であるため。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の回数を重ねるごとに、地域の方々や関係機関からの助言等を頂けるようになってきたため。今後も積極的に地域や関係機関とのつながりを深めていくように努めていきたい。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間でのコミュニケーションがよく取れており、職場の雰囲気の良いため。また、運営者の中には職員として働いている方もおられ、職場の状況に対してよく分かっており、理解があるため。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりの性格や状態に合わせた支援をするように、職員間で話し合っており、利用者の意志を尊重したり関わりを行っているため、不満や苦情はあまり聞かれないため。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会や電話、家族会、アンケート等で、家族からの不満や苦情を聞いたことはめったにないが、サービスに対しての喜びや感謝の言葉は多く聞かれるため。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・時間を区切って何かをするということは決められていないので、利用者一人ひとりが自分の自宅で過ごしているように、自由にしたいことをしたい時に行うことができるよう支援している。
- ・利用者一人ひとりの性格や趣味、状態に応じた外出(石手寺参拝・買い物等)や行事など、個性を尊重した支援に力を入れている。
- ・隣接した建物が周囲にないため、日当たりが良く、圧迫感もないため建物内外が開放的である。
- ・施設の前には瀬戸内海が広がり、天気の良い日には広島県が見えて景色が非常に良い。特に2階からの眺めがとても良く、見学で来られた家族や本人もその眺めを気に入られ、その場で入所を決められる場合も多くある。